



専門科目	機能系検査学	生理検査学Ⅱ	◎	○	○	○	脳波検査、筋電図、神経伝導速度等の神経系の生理検査について、基本的知識の講義と共に視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。		
		画像検査学		○	○	○	○	本教科では、呼吸機能検査、超音波を利用した画像検査等について、教科書やアトラスを用いて講義し、ビデオ等の視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。	
		生理検査学実習	◎	○	○	○	◎	生理検査に必要な技術の習得 とくに医療過誤を防止し、正確な検査データを迅速に作成することを目標とする。	
		画像検査学実習	◎	○	○	○	◎	画像検査の測定原理、結果の解釈、臨床的意義を認識させ、正確な検査技術の習得をめざす。	
		臨床画像検査学	◎	○	○	○	○	前半では、超音波診断装置および磁気共鳴画像診断装置の構成、動作原理、基本性能などを理解する。後半では、磁気共鳴断層撮影の原理と撮影方法の基礎から実際のパラメーター設定を含めて実用的な知識を習得する。さらに疾患や部位ごとの撮影方法や得られる所見及び情報についても理解することも目的である。	
		分析化学	◎	○	○	○	○	化学反応を利用して医薬品や環境試料などを分析するための基礎的知識を習得することを目的とする。	
	形態系検査学	解剖学実習	◎	○	○	○	◎	解剖学の基礎知識と病理検査学や臨床血液学等の専門的知識の連携として、人体の諸形態や臓器と正常組織との関連を重視して、組織細胞の形態的意義は生理的機能に及ぶ広い範囲の知識と概念を修得することを目的とする。	
		病理学Ⅱ	◎	○	○	○	○	病的状態、とくに腫瘍における組織学的所見を理解する。	
		病理学実習	◎	○	◎	○	○	◎	病理診断は最終診断であり、他の種々の検査にもまして重要である。病理診断の際に必要な顕微鏡標本の作製技術の習得を目的とする。
		病理検査学	◎	○	○	○	○	細胞診断学と病理組織標本の作製について学ぶ。	
		病理検査学実習	◎	○	○	○	◎	◎	病理学実習の基礎のもとに、病理組織標本作製のうち、特に特殊染色の習得を目的とする。細胞診では、主に婦人科および呼吸器腫瘍において得られる良性細胞と悪性細胞の鑑別およびスリーディングの基礎的技術の習得を目的とする。
		微生物学Ⅰ	◎	○	○	○	○	◎	感染症の原因となる微生物の形態、代謝、増殖、遺伝の特徴を学び、微生物検査および臨床検体の安全な取り扱いに必要な基礎知識を身につける。
		微生物学Ⅱ	◎	○	○	○	○	◎	感染症は微生物の病原力がヒトの感染防御能を超えた場合に発症することを理解し、微生物の薬剤耐性化のメカニズムを学び、感染症の化学療法の基本的事業方を知る。病原性細菌のうちグラム陽性球菌、グラム陰性球菌による感染症の微生物検査法に関する知識を修得する。
		臨床微生物学Ⅰ	◎	○	○	○	○	◎	感染症の原因となる細菌の生物学的性状や病原性の特徴、引き起こされる感染症についての基礎知識を修得し、細菌学の臨床応用と検査結果の解釈法、診断・治療における検査の重要性を理解する。
		臨床微生物学Ⅱ	◎	○	○	○	○	◎	感染症の原因となる細菌、真菌、ウイルスの生物学的性状および病原性の特徴、引き起こされる感染症についての基礎知識を修得し、微生物検査の臨床応用と検査結果の解釈法、診断・治療における微生物検査の重要性を理解する。
		微生物学実習	◎	○	◎	○	○	◎	病原性細菌および真菌を用いて、微生物検査の基本的技術である滅菌・消毒法、培地や試薬の作製法、無菌操作法、染色、培養、同定、薬剤感受性試験、遺伝子検査法の実験的修得を行い、微生物学に必要な微生物検査の臨床技術を身につける。さまざまな検査法の原理や判定方法についての理解を深め、検査結果の正しい解釈法を身につける。臨床実習では、臨床検体を用いた検査を見学・体験し、診断における検査の重要性を理解し、問題解決能力を高める。
		動物学	◎	○	○	○	○	◎	寄生虫と宿主の相互関係から寄生虫疾患の意味を理解し、その感染様式について生命の相互作用や進化の問題も含めて考察できるようにする。またこれに関連して、寄生体の寄生による免疫機構や代謝機構の特徴を考察し、これらの理解をふまえて、寄生虫の病理、診断、予防法が総合的に把握できるようにする。
		動物学実習	◎	○	○	○	◎	◎	実習を通じて寄生虫疾患の理解を深め、寄生虫と宿主の相互作用を理解する。また、寄生虫疾患についての適切な診断法が選択できよう十分な能力を身につける。また、補助診断法として有用な免疫診断法についての理解を深める。
		臨床血液学Ⅰ	◎	○	○	○	○	◎	血液疾患の診断に必要な検査法の意義や方法と疾患との関係を理解させる。
		臨床血液学Ⅱ	◎	○	○	○	○	◎	主として出血性疾患の理解(賀川、中村)と、血球の産生と、赤血球、白血球の機能ならびにこれらの血球系の疾患を理解する(演野)。
		臨床血液学実習	◎	○	○	○	◎	◎	血液形態および止血血に関する検査手技の習得と検査法の臨床的意義の理解、さらに臨床実習を通じて、基本的な手技と診断上の重要性を体得させる。
		免疫学Ⅱ	◎	○	○	○	○	◎	輸血と移植免疫に必要な基礎知識について学ぶ。
		免疫検査学	◎	○	○	○	○	◎	免疫学的検査の意義を学ぶために、現代免疫学の理論的背景を理解する。
		輸血検査学	◎	○	○	○	○	◎	輸血検査の意義を学ぶために、輸血学の理論的背景を理解する。
	免疫検査学実習	◎	○	○	○	◎	◎	免疫血清学的検査の基本手技と診療上の重要性を、実習を通して体得させる。	
	輸血検査学実習	◎	○	○	○	◎	◎	輸血検査の基本手技と診療上の重要性を、実習を通して体得させる。	
	分子遺伝学	◎	○	○	○	○	◎	生物における遺伝情報の複製や遺伝子発現の調節について学び、疾病発症の機序や検査技術科学における遺伝子検査法の原理を理解するための基礎知識を得る。	
遺伝学	◎	○	○	○	○	◎	生物の遺伝的な現象を理解し、応用に結びつく遺伝学の基礎知識を習得する。		
遺伝子検査学Ⅰ	◎	○	○	○	○	◎	さまざまな遺伝子検査技術の原理、正確かつ安全に検査を行なうために必要な基本的な手技、および検査結果の正確な解釈に必要な精度管理法等を学び、遺伝子検査技術に関する基礎知識を修得する。また、遺伝子検査技術が医療や医学研究にも利用されていることを知る。		
遺伝子検査学Ⅱ	◎	○	○	○	○	◎	実習を通じて遺伝子検査の基本的な手技を身につけ、基礎技術および検査結果の解釈に関する理解を深める。新しい臨床検査技術の開発研究や遺伝性疾患の原因に関する研究についての講義を通じて、遺伝子検査技術への関心を高める。		
専攻共通	検査機器総論	◎	○	○	○	◎	臨床検査においては、多くの精密機械や分析機器が用いられている。そこで、これらの機器の原理、構造、使用法及び保守管理などについて教授する。		
	医用工学概論	◎	○	○	○	◎	医療における工学の役割を理解し、生体情報の収集・分析や治療に使用される工学的機器の原理、構造、特徴、安全対策を学習する。*この学級のDIPの中には幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している人が含まれています。		
	医用工学実習	◎	○	○	○	◎	◎	将来、臨床機器を取り扱うことを想定して、エレクトロニクス回路の応用、医療測定装置、交換機器などの安全性試験、特性試験などの実験を通じて、医療技術の精度と安全確保の重要性を習得する。*この学級のDIPの中には幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している人が含まれています。	
	臨床医学総論	◎	○	○	○	◎	◎	疾病の原因、各種疾患の概要につき講義する。	
	臨床病理学総論	◎	○	○	○	◎	◎	神経筋疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患、動脈硬化病変等と検査の関連性を講義し、疾患の病態生理と検査成績の変化について講義する。	
	臨床検査総論Ⅰ	◎	○	○	○	◎	◎	臨床検査とは何か、医療における臨床検査技師の役割や他の医療職種との関連、強弱についての知識を身につけるようにする。また、各種の専門的な検査を事前に実習する一般検査のうち、科学的な検査項目について、その測定意義及び検査法を学習する。	
	臨床検査総論Ⅱ	◎	○	○	○	◎	◎	尿、便、髄液、腹腔液など、血液以外の生体材料を用いる一般検査についての知識を学習する。	
	臨床検査総論実習	◎	○	○	○	◎	◎	尿、髄液、穿刺液等を対象とする一般検査や緊急検査中の特に、尿の化学検査について実習を行う。また、臨床検査業務に必要な事項についても、その手技を十分に習得できるようにする。	
	検査管理総論	◎	◎	○	○	○	◎	病院検査部の現状と将来展望および検査業務遂行に必要な技能の習得。	

専門科目	専攻共通	医療法規	◎	○	○	○	○	臨床検査技師がコメディカルとして業務を行う上で守らなければならない医療法規の範囲と、他の関係法規とのつながりを把握させることを目的とする。
		臨床技能実習	◎	○	○	○	◎	4年次に実施される病院での臨床実習において必要な、基本的技術や知識を習得することを目的とする。
		電子計算機概論	◎					コンピュータの基本的なアーキテクチャ、及び情報科学の基礎的な学問について講義すると共にG言語による基礎的なプログラム作成能力を実習を通して習得させる。
		電子計算機概論実験	○				◎	電子計算機を用いた検査技術の原理・手法を深く理解することで、より品質の解析結果が得られたり、解析方法改良の発想が生まれる可能性がある。生体情報の信号処理とデジタル画像処理の実際を体験に基づき修得することがこの授業の目的である。
		専門外国語	○	◎		○	○	臨床検査技術に関する専門英語および検査室での英会話に習熟し、臨床検査技術に関連する最新の情報を国内外から取得する方法を学ぶことにより、国際性を身に付ける。
		病態栄養と臨床検査	◎	◎		○	○	近年、糖尿病、脂質異常症、痛風等の代謝疾患が増加し、動脈硬化性疾患並びに血栓性疾患の原因として注目されている。本講義では、これらの代謝疾患の成因につき、栄養学的な観点から解説し(濱田)、病態解析に有用な臨床検査法についても教授する(齋藤)。(オムニバス方式)
		健康食品学	◎					医学・栄養学・食品学の科学的知識をもとに、保健機能食品およびいわゆる健康食品の機能・効果・影響等について教授する。さらに、食事と疾患の関係、健康食品と薬の相互作用、健康食品や食品添加物の安全性や用い方を教授することによって、対象者の健康状態に応じた健康食品の利用法を適切に判断し、指導できる能力を養う。
		健康食品法規	◎			○		健康食品法規では、健康食品に対する安全性の確保、品質、販売方法等に対する法規について学ぶ。
	国際医療活動論		◎		○	○	This course is an introduction to understand of the concept of International Nursing and health, the global perspectives on health, and the global cooperation and collaboration of nursing and other health care providers.	
卒業研究		○	○		○	○	◎	臨床検査分野のテーマについて、実験計画を立案し、実験を行い、それをまとめる作業を行うことにより、研究態度、独創的思考を養うことを目的とする。